第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ１

＜主な意見＞
○駅周辺の開発について　10 年後どのようなものになるか、示されるとよい
○にぎやかな町は、人が交流できていて地域にもそのような場がある
○ソフトの部分で人がどのように住んでいられるかを考える
　戸田市に住みたいと思われるような町⇒発信－相手が欲しい情報を確実に
○福祉サービスが充実しているから戸田市に住んだという意見もあった
○交通や買い物が便利なことが（現状）、愛着へつながるとは言えない
○広報配布で顔がつながる⇒知り合える
　リーダー、町会の気持ち次第
○必要な個人情報が地域で下りていない
　民生委員と町会が密接に連携がとれていない
⇒高齢者の情報をいただきたい
　→個人的　安否確認したくても住所が分からない
○若い人は自分のこととして捉えない
　⇒交流できる場づくり
　　欲しい情報の発信
○町会での広報配布⇒知り合い、顔なじみになれる機会
○住んで良かった町、住み続けたいというまち
　⇒引越しても戻りたい

＜キーワード＞
・自分のものとして考える
・情報発信
・知り合う、顔なじみになる
・交流できる場

＜まとめ＞

・高齢者に対して介護施設が充実している。

・人が交流し、お互いが地域でつながる。（顔がつながる。）

・戸田市に住みたいと思われる町。」

①物理的な部分×　　②情報発信　　③便利≠愛着

ソフトな部分○　　↑

必要　今以上に

広報だけでなく

課題

○自分のことが精一杯で、なかなか関心がもてない。

町会で防犯活動を特に強化している

↓

誇り、愛着につながる

↓

転出しても、戻ってきたい。住みたい。

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ２

＜主な意見＞
○高齢者・・・今は大丈夫だが、20 年後 30 年後は危機を迎える→高齢者にやさしいまち
○子育てにあたたかいまち→共働き夫婦に対して、地域行政が支援
○子育てしやすいまち→戸田市に生まれて良かった→戸田市に住み続ける→郷土愛
　→自治の発生
○転入者に対して、戸田ってこんなに良いまちなんだと思ってもらえる
○自分のまちを良くしたい→行政主導ではなく、協働で市民と一緒にまちづくり
○良い街（色んな視点、考え方がある）
○犯罪発生率ワースト１位　南原町会は自分たちで何とかするという思い
　　→自分たちのまちを良くしたい→ブランド化
○夜でも明るいまち（道路、照明灯、防犯灯）行政が良くやっている
○キャッチフレーズ　「一人ひとりが自分の居場所、出番を持つまち」
　　→「支えるし⇔支えられる」→幸福なまちにつながる
○引き籠もりの人が地域で集える場所→向こう三軒両隣りのつながり
○強制ではなく、自然と発生するもの＝自治
○一人では生きられない（震災をきっかけに）
○災害に備えて etc　どのような課題でも良いからきっかけとなることを話し合う場が必要
○共通の問題点があるとそれに向かってみんなが力を合わせる→犯罪が減る（南原町会）
○民生委員の見守りにも限界がある→地域の見守りが希薄化
　　→ボランティアを生かすしくみ
　民生委員のサポーター制度が必要
○子供の関係で親のつき合いはあるが、隣人との関係にはなり得ていない

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ３

＜主な意見＞
○住みやすいまちにしていきたい
・悪い意味で都市化が進んでいると思っていた
⇒関心があるとすごく力を出す人たちがいる
忙しい人が多い。でも大切なことだと、夜でも集まってくれる
・行政、NPO、地域が連携し閉鎖感の無いまち
NPO 活動　なじむのに時間がかかる⇒団体がつながり共有できるには時間がかかる
どんな看板（○○大学、教育委員会）をかかげても顔を知らないと受け入れてもらいにくい。
→活動が根付き、やっと不審感を持たれずあいさつができるようになってきた。
→NPO と教育委員会・地域の閉鎖感をなくす、活動を通じて顔を知ってもらう
・意識の高い母親が多い（共働き世帯が多い？）
目的に向かって努力していく姿勢
・一生住むという人が少ない？
ベッドタウンとしての悪い所＝まちを良くしようという意識は？
・福岡（幼稚園１つ１つにポリシー）＝教育意識高い
戸田　子どもに教育機関（幼稚園）の充実
子どもを育てていくゆとり
・もっといろんな意味でゆとりや選択肢のあるまちになったら良い
○10 年後には、世の中が経済的にも厳しい状況になっているはず。それでも、生きやすい・生活していけるまちになっていてほしい。近所のコミュニティがしっかりしていないがためにおきてしまう事故をなくしたい。
・隣近所など、人と人とのつながりを大切にできるまち
○海外に出やすい環境
○イベントに頼りがち、元々の土台づくりが大事　土台づくりに力をいれるような取組
・イベントの時だけでなく、日常的にコミュニケーションを醸成できるまち（イベントではなく継続的）
○自然が豊かであることや都心に近いことなど、戸田市が持っている「資源」をより生かせるまち
・元々の資源を生かす、都市に近い立地を生かして
例）都内の科学館　ソフト面
東大　サイエンス講座をやっているが学校と協力することは難しい　情報共有
・戸田の良さに気づく、自覚する、上手く利用していく

＜まとめ＞

・共通の目的があると市民は積極的になる。

・学校、地域、NPO 団体など情報共有をして、必要なものを補完し合える仕組みを。

・戸田の立地やすばらしいところに気付けたり、利用できたりする仕組みができたら良いと思う。→意外と気付いていない人が多い

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ４

＜主な意見＞
（挨拶しても）人によっては嫌な顔をされることもある
普段からどなたにも挨拶をしているが、子どもを連れた方には話しづらい
挨拶ができるような街になればいい
近所であれば話しかけられる
お互いに安心できる

スーパーが大きくなったり、マンション化が進み声かけができなくなっている
（挨拶すると）変な人と思われるが、思われても良いと思う
気軽に声をかけられるような街にしたい
自らあいさつできるようにする。頭を下げるだけでも違う。
笑って頭を下げられるとホッとする。
いろんな環境を整えるのが市役所
⇒顔見知りになること
コミュニケーションができていないと、市民から立ち上げていく姿勢
福祉センターで友達になったりする
いろんな話題が出てきて知り合えることも多い
昼来る人と夕方来る人が違う
各制度を知らない
広報がどこに行ったらもらえるか、以前は知らなかった
福祉センターには資料がたくさんある
意識のある人が関心をもつ
無関心な人は見ない
口コミで知る
気軽さ

コミュニケーション、挨拶があるまち

＜まとめ＞
ポイント
・挨拶を交わせるまち
・気軽なコミュニケーション
・口コミで広がる情報
⇒「自宅前では気軽にあいさつをできるが少し家から離れてしまうと、不審がられてしまう。将来的にはより広い範囲であいさつができる街となると良い」とのことで、グループ内では賛同の声があった。

そのために：市民の自発性と、これを行政が支援していくこと。

■グループ５

＜主な意見＞
○イベント時に防災グッズなど使っている
○地域差がどうしてもある
○子どものイベント
○周知が足りていない　情報共有
○困っている人への情報提供
○条例文だけにならないように
　本当に進めていく成果
　責任までを理解してもらえるか
　　←楽しいだけじゃない、理想だけではない。
　できる範囲
○責任のあるコミュニケーション　真剣に議論する場
　　←豊かになるために

＜まとめ＞
・理想や楽しいことを議論するだけではなく、市民一人ひとりが責任をもって条文につなげていってほしい。言葉や理想論で終わらせずに成果が見える取組を行ってもらいたい。
・地域によってコミュニケーションとなる取組例は様々である。
　地域差をなくして、本当に困っている人へ、適切な情報提供ができる環境が必要。
・効果が出なければ事業を潔くやめられる勇気も大事である
・世代を超えてお互いに補完しあえるようなまち

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ６

＜主な意見＞
○北戸田駅周辺の開発→にぎやかに。良いが、今までの環境も残してほしい。便利+憩い
○良かったと思える市
　色々な会議（公募）に参加すると、職員の人が身近に感じることができた。
　＋地域で活動している人がいることも分かった
○埼京線開通で変わってきた
　戸田駅中心→遅れている、区画整理、下水
　10 年では変わらない
　戸建て購入した人
　賃貸
○「戸田市民になりたい人」が来るようなまちになったらいい
　ハードではなくソフトで魅かれるまちに
　地域の活動に協力してくれる人
○10 年後→そもそも今のは良いのか悪いのか
　　←問題があるから良くしよう、ではない。
○行政と市民がもっと近く

＜まとめ＞
・現在住んでいても問題がなければ、特に変わらなくても良いのではないか。
・「戸田市民になりたい」と思って引越してくるようなまちに。
　→そうでない人（都心から近い、公共料金が安い etc.）でも、住んでみたら良いまちだと思える、魅力的なまちであれば good
・住民と市職員が近いまち
　→地域のことを身近に感じることができる
　→ニーズをすぐに伝えられる

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ７

＜主な意見＞
○こどもの自殺が多くなっている
　なぜ事前に助けられないか　→　こどもを守る制度を充実
　高齢者の孤独死が多い
○今は財政が良いといわれている
　高齢化も顕著
○企業が減っている
○人が住み続けられることが出来ることを 10 年後までに確立しないといけない
　昭和 40 年代後半には、団地がたくさんできたが、今は陸の孤島状態
○マンションが多いことから、代が変わったら住み続けられない
○<u>他世代が一緒に暮らせる住環境を構築しなければいけない</u>
○高齢者をうまく利用する
○新住民の顔が見えない
○個人情報（プライバシー）がネックになっている
○空き家、空き店舗の用途を変えていく
　→市民が集える場所にする等、市民活動団体が、活動できる場所
　　保育関係は上記のような取組が始まっている
○他世代がマンションに入れるような仕組みづくりを行政が行う（不動産業者と協働で）
　上記は高島平団地でも実施されている
○若い人が戸田市に住み続けたいと思わせるような中身を濃くしていかないといけない
○<u>世代交流を進めないといけない</u>

＜まとめ＞
・子どもを守ることができるまち
・教育問題のないまち
・高齢者の見守りができるまち
・持続可能なまち
　（税収確保）
　（雇用を守る）→企業誘致、創業環境の保全
・若い人が住み続けられるまち（制度をつくる）
・住環境を整え、他世代が住み続けられるまち
・世代交流ができるまち
・魅力的な街並みをつくる
　　→自主的な維持活動につながる。→住み続けたいという思いにつながる。
　　→土地の評価が上がる。→税収アップにつながる。

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ８

＜主な意見＞
○安全なまちであること（地域から人の出入りも多く、犯罪が多いと聞くので）
○新たに住民となった方と、古くからの住民が融合しやすいまち
○行政とのタイアップによる市民発意の政策が行われるまち
　（さいたま市のツールドフランスの誘致活動（市民主体）のように）
○市民・行政の相互の補完が整っているまち
○市民と行政の距離が近いまち
　（お互いの話し合いの敷居が低い関係）
○市民は身近な課題に関心は高い（子育てを含め）、その関心を表に出せる風土のあるまち
○お互いの意見・情報が交換・共有できるまち（市民・行政）
○世代の異なる市民同士が交流を図れるまち
○市民・行政のお互いの信頼関係が築けているまち
○地域の活動を含めより広く情報が公開・共有されているまち

■グループ９

＜主な意見＞

○今回のような（市民協働ワーキング）話し合いの機会は大切にしていきたい。

⇒“ゆるやかなネットワーク”作り・・・町会とか自治体とか厳密な形にあてはめない「ゆるやかさ」

○昔と今を比べると、ネットワーク作りに気楽さがなくなった。

（第一子と第三子の子育てしたときの感想）

⇒「公園デビュー」とかネットワーク作りにマニュアルとか名前をつける違和感。

○人材資源の活躍できる場への引き上げが大事

⇒町会とかで活躍出来ていない力（人材）はもっと眠っているハズ。

○団体とのつながりではなくて、個と個でつながりたい。

（町会、子ども会 etc）

⇒ex）○○課の△△です、じゃなくて△△（個人）でつきあいたい。

異動しても、関わりが消えないようにする

⇒ex）校長先生と子ども会のお母さんとの食事会

初めはクレーム？！と構えられたけど、仕事とか用がある時だけ話す関係性はさみしい。

○あいさつ。日頃からの関わり合い

第６回市民協働ワーキング（2013 年 1 月 12 日（土））　ワークショップの記録
テーマ：「戸田市をどのようなまちにしたいか？」（10 年後の戸田市の自治の姿は？）

■グループ１０

＜主な意見＞

①自助・共助・公助の仕組

市の職員は減少していく

地域課題の本質的な解決のため、今まで以上に協働のまちづくりが必要な時代になる。

②町会副会長もやっていた

財政が豊かだというイメージは難しい

自分たちにはどのような努力ができるか

どんなことでもいいから、戸田をよいまちにするために、何かに参加でなくてはならないという思い・意識

③ 楽しむ、交わる、交流の機会を増やしていく

⇒自治が一歩先に進んでいく

いろいろな場面で市民同士が交流しているとよい

④あれもこれも、問題は多い、複雑化している

⇒もっとシンプルにできないのか

それぞれ双方向でつながっているものを行政はサポートにまわり、大きなメカニズムにつなげていく

⑤上戸田で 9 年　町会は入っているが分からないような現状

あまり戸田市についてはよく分かっていないという意識

転出入が多いまちの特徴

地域のイベントが多い

転入してきた人が、もっと地域に入っていけるような、溶け込めるような仕組み

⇒戸田を知ることができる、郷土愛が育まれる

上戸田ではそういう風土が

つなげていく役割

市民の役割　行政の役割

自治のしくみ＝協働

理解していく

町会イメージ⇒役割の負担　みんなで一緒に動かなければならない

市民ややる気を持っている人が多くても、その方々が活躍できる場がないといけない ↓ 発揮できるシステム、場、中間リーダー、コーディネーター

町会という地縁
テーマがコーディネート

＜まとめ＞
・地域課題の本質的な解決のため、今まで以上に市民の役割は重要となってくる
・まちをよくするために
「自分は何ができるか」「どんなことでもよいから参加しよう」という意識
市民みんなが持つようにならないといけない
・様々な場面で市民同士や市民と行政が交流していると望ましい
・それぞれ双方向でつながっているもの同士をつなげ、大きなメカニズムに育てる
（行政はサポートに徹する）
・やる気を持っている人がどれだけたくさんいても、その人たちが活躍できる場がないといけない（町会長とは異なる）
⇒コーディネーター、中間リーダー

＜キーワード＞
・参加する市民
・双方向
・町会とは異なるリーダー、コーディネーター
・郷土愛
・交流する
・世代を引き継いでいく